

教育委員意見交換会

日 時 令和 7 年 5 月 9 日（金曜） 午後 2 時 46 分～午後 4 時 35 分

場 所 堺市役所 本館 3 階大会議室

出席者 関百合子教育長 豊岡敬委員 新谷奈津子委員 長田翼委員 大内秀之委員 中村善彦委員

（事務局） 櫻田浩樹教育次長 富岡重幸教育監

北野雅史教委総務部長

守谷奈津美教職員人事部長 宇野敬子教職員企画課長 高山宗寛教職員人事課長

渡邊耕太学校教育部長 江川玲子生徒指導課長

若林敦子地域教育支援部長 北野勝美地域教育振興課長

石崎典和学芸課長

居谷達矢教育政策課長 杉本篤史教育政策課課長補佐

楠本奈央子教育政策課企画係長

案 件

- ・令和 6 年度堺市博物館協議会会議報告
- ・堺市社会教育委員の委嘱について
- ・公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律案の概要について
- ・いじめの重大事態調査結果報告書を踏まえた今後の対応について
- ・令和 6 年度版教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価について
- ・次期堺市教育振興基本計画について

・令和 6 年度堺市博物館協議会会議報告

令和 6 年度に 2 回開催した博物館協議会の内容について説明。

（主な意見）

- ・ 学生等が利用している SNS を活用した情報発信として、公式インスタグラムを開設されたということだが、見ていただくターゲットとして学生等を考えているのか。
→ そのとおり。学生や若者世代が利用する SNS として、インスタグラムを開設した。
- ・ 市としてインスタグラムを開設することは、様々な承認が必要など、ハードルが高いものなのか。
→ 市のルールに基づいて所管である広報戦略部と開設準備を行った。開設して終わりではなく開設後に、効果的に運用し続けることが必要ということだった。ターゲットの若者に合わせて、記事を投稿する担当者も若い世代のスタッフが担当している。
- ・ 更新の頻度はどの程度か
→ 週に何度か記事を投稿している。令和 9 年度でフォロワー 5,000 人を目標にしている。
- ・ 開設するにあたり、どれくらいの期間がかかったのか
→ 半年近くの期間がかかった。

・堺市社会教育委員の委嘱について

堺市社会教育委員について、次期委員の委嘱の予定について説明。

(主な意見)

- ・ 特になし

・公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律案の概要について

公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律案の概要について説明。

(主な意見)

- ・ 教員の処遇の改善について、教員の給料が専門職にふさわしい水準に上がっていくことは望ましい。しかし、学級担任への加算に関して、教科担任制なども増えていく中で、学級担任を持たずに複数の学年または学級で授業を行う教員は担任との差がついてしまうが、この点に関して、現場の先生方の思いはどうなのかが気になる。
- 確かに、教員の役割は担任と担任以外で単純に2つには分けられない。今回の学級担任への加算に関しては、担任を持っているか、持っていないかで、在校時間が長いという国のデータがあるため、その部分を改善しようと考えている。学校園の意見を聞きながら十分に検討していく。
- ・ 教職の魅力を向上と書いているが、魅力が向上する内容は書かれてない。様々な処遇や、働き方を見直すことは大事だが、堺市としてはそれらに加えて、教職の魅力を前面に出してほしい。働く未来像を想像できるように、数字だけではなくて、堺独自の何かを発信できないか一緒に考えていきたいと思う。
- 魅力という点について、教職のブラックな部分がメディア等で多く語られている中で、処遇の改善について伝えることも大事である。同時に教職のやりがいも伝え、本市の教職の魅力の発信に努める。
- ・ 大学生を普段見ている立場として、処遇改善の動きは非常に素晴らしいことだと思う。教員としてのやりがいというが、それに伴う処遇が追い付いていないという批判があり、大学生にとって将来を思い描けるような処遇が見えなければ教職は選ばれない。「高度専門職にふさわしい処遇の実現」という文言通り、そのプライドをもって大学生に選んでもらうためには、小さくても大きな一歩であると思う。「先生になりたいけど、ブラックなのが怖いからやめる」という学生は多い。このような先入観を変えていかなければいけない。

・いじめの重大事態調査結果報告書を踏まえた今後の対応について

いじめ重大事態調査結果報告書における提言内容をふまえた学校及び教育委員会の対応について説明。

(主な意見)

- ・ 早期のいじめの認知に向けたホットラインの開設はされているのか。また、議事録のひな型を i システムのエクセルデータにシートとして追加するとあるが、どのようなものか。
- ホットラインは、電話や LINE での相談窓口を開いている。LINE を持っていない児童生徒用に QR コードを付けてウェブ上で悩み相談ができるようにしている。また、i システムについては、学校が認知した事象について対応等が終わってから記録するというものから、早期の段階で事象を教員が入力し、認知から対応までの経過を学校の記録として残していく仕組みとした。
- ・ ホットラインは、どこが窓口として受けているのか
- 電話相談（こころホーン）は教育委員会事務局が窓口である。LINE 相談は外部委託で毎年業者を選定している。
- ・ LINE 相談は外部委託ということだが、その相談に対して学校は対応しているのか。
- LINE 相談での相談内容は、学校や保護者に相談できない内容などもあり、相談員は相談を受けながら相談機関

等へ繋げるなどの対応をしている。

- ・ 潜在化しているいじめ問題を顕在化することが第一歩かと思う。当然、いじめ未然防止の啓発も必要だが、発生した時の初動が大事。被害をうけているこどもを取りこぼさないよう対応してほしいと思う。
- ・ 記載されている内容を具体化していくことが難しいことと思う。たとえば、「研修」ならどのような研修が必要なのか。研修をしてもなかなか身につかないこともあるのではないかな。
- ・ SC や SSW などの専門職の知見を活用するには、教員の力量として対応力も重要である。
- ・ 教員がキャパオーバーにならないのか。細かい声掛けや働きかけが大事であるが、教員は学級運営をする中で、いじめや児童虐待などさまざま気にかかる必要があり、役割が多すぎるとも感じる。
- ・ いじめ対応は、初期対応が大事であり、どこでいじめと認知したのか、何月何日に誰が集まってどのような協議の結果、認知に至ったのかなど、i システムで記録するという仕組みは良い取組である。
- ・ 学校の教員が自分事として捉えるところが不十分だと感じている。「たぶん大丈夫だろう」ではなくて、「ちょっとおかしいな」、「もしかしたら」、と思わなければいけないという認識が不足していることが問題だと考えている。教育委員会として様々対応はしているが、話が上がってくるまでにこじれてしまっていることが多い。認知をする義務、認知しなければいけないという流れにすべきである。認知件数が多くなることを奨励するところから必要ではないかな。
- ・ ハインリッヒの法則というのがある。重大事態の背後にはヒヤリハットが一定数存在するというもの。いじめも一緒に、軽微なものでも一定数発生していれば組織として何らかの問題がある可能性があり、それが重大ないじめにつながる可能性がある。軽微なものでもそれを情報として持っておき、対応を早くしていくということが重要だと思う。

・令和 6 年度版教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づく点検・評価の実施方法の方針について説明。

（主な意見）

- ・ 特になし

・次期堺市教育振興基本計画について

現在、作成を進めている次期堺市教育振興基本計画に関して、内容の検討に向けた取組や第 3 期未来をつくる堺教育プランの振り返りなどについて説明。

（主な意見）

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果がよくないが何が原因だと分析しているのか。学力の 2 極化とあるが、低い学力層の人数が多いのではないかと想像できる。そうすると施策も 2 極化しないといけないのではないかな。全体の底上げではなく、2 極化に対応した堺市の方針を見つけていくことなく、他の政令市と同じことをしても向上していかないのではないかな。
- 原因については、複数の要因があるが、「複数の情報を関連させて考えるのが苦手である」、「無解答率」という点に課題があると考えている。また、学力向上のワーキンググループを作って授業やカリキュラムについて検討している。
- 教員にとって授業改善は欠かせないものと考えている。昨年度から、本市として学びのコンパスを活用した授業改善を進めている。学びのコンパスの浸透は進んできているが、高度な授業であるため、教員の力量を伸ばしていくことが必要である。
- ・ 個人的な意見だが、授業をどうするかという点と、文部科学省が取り組もうとしていることを教員に伝え、考えてもらうという点も大事である。

- 正答率 40%未満の児童の割合が突出している印象なので、そのような児童をどうサポートしていくのか、考えていく必要がある。
 - 小学生 200 人に向けて講演をした際に、未来はどういった社会をイメージするかという質問をしたところ、「こういう社会になってほしい」などの他人事のような回答が多かった。どのような人になりたいかの質問に対しても、言い切る子が少ない。こどもが主体性を持つということが重要だと感じている。主体性がないと ICT を活用して自分で調べることもしない。
 - テストで無解答になるのは自信がないからだと思う。正しいものを選ばなければならないと思っているのか、チャレンジする気持ちが大事である。それが学力向上に繋がるかはわからないが、主体的に考えていきたい。
- 探究的な学びが主体性に繋がっていると思う。主体的にやらないと学力は身につかない。主体性は勉強だけではなく社会に対する向かい方、すべてに必要。主体性をどう育むのか、学力向上について検討するワーキンググループでも学びのコンパスの授業モデルにどう組み込むのかという方向で進めている。
- こどもへの出前授業については、自らが受けている教育の方針に意見を言えるという貴重な体験になると思う